た。

喫茶店開業希望者向けから が4月、開講70周年を迎え キーコーヒーの「コーヒー教

始まったが、現在では一般の若

当社は100年を超える ニー」にも関わるが、 サステナブルカンパ 琲と K I S S A の

お店で飲むもの、という

求している。子どものこ

ろにミルク入りやカフェ

印象が強かったのが理由

その象徴である喫茶店が 業、日本のコーヒー文化、 歴史のなか、コーヒー産

だろう。

しかし、1990年代

ヒーの原体験、を提供し、 インレスを通じた゛コー の始まりとは

だった。 を考える人が多くいる ビジネスが新しく、開業 だ。当時は喫茶店という ″喫茶店の出店ブーム″ 開講は1955年4月

調理を含むノウハウを広 はじめ、デザートや軽食 た。コーヒーのいれ方を 着けていない人も多かっ 必要な知識や技術を身に め開業を支援するために 方で喫茶店の開業に

「コーヒー教室

続けてきた。

ただ、いち従事者とし

ことに貢献したいと考え 永続的に残り、成長する



多角化してい るが、祖業に

考える生活者が増え、

2

分でコーヒーをいれる際 会が形成されるなか、自 が身近な存在〟になる社

ある。

公開している動画

また、 ECサイト、

直

自負している。

「コツはあるのか」と

KEY COFFEE Coffee Seminar 70th

上がった。 「コーヒー教室」 が立ち 関わる活動と捉えても る。 らっても相違ない。 も繋がると確信してい サステナブル経営に

り一般向けも開放 ープロ向けから始ま

以上が受講する息の長い

現在までに延べ37万人

活動になっている。

り、今後の展望について聞いた。

(聞き手 石母田

これまでの変遷、独自のこだわ

ング本部市場戦略部・写真)に

コーヒー教室室長(マーケティ

で溢れかえっている。前田智紗 者から中高年まで多様な受講者

者にとって、コーヒーは う概念がほぼなく、生活 コーヒーをいれる。とい で溢れていた。、自宅で 開講当時は開業希望者

とっての位置付けは

-キーコーヒーに

レートメッセージ「珈

現在掲げているコーポ

問わず重要で、その顧客 ヒー文化の持続可能性に である喫茶店の繁栄は当 ひいては日本コー 講座をスタートした。

近い業務用事業は時代を

008年から一般向けの

めれば幅はさらに広が する親子向けの講座も含 参加している。子どもの 60・70代まで多様な方が く広がった。学生から 夏休みの期間などに開催

飲料〟になる可能性を追 が、コーヒーが、全世代 と思われるかもしれない

――一般向けで変わっ

「子どもにコーヒー?

受講者の年齢層が大き

いる。

れるのでは、と期待して ヒー市場を盛り上げてく 大人になった時にコー

プロから 般まで広く受け入れ7個 人気講座は

回に増やすことも を月1回から月2 気ぶりを見て開催 との声も多い。人 きっかけになった 画コンテンツが に公開している動 後を絶たない。常 もに受講希望者が

コーヒーが象徴的だろ えばCVSカウンター ようになった。近年で言 場所でコーヒーが飲める 陸を発端とし、あらゆる の海外カフェチェーン上

このように、コーヒー

とって馴染み深いから リップ体験だ。日本人に 初心者向けのハンドド か、プロ、一般と

また、SNSで よう努めている。

在顧客と考えてい 商品やサービスの潜 の作り方も紹介して 店を連想させるプリ いる。視聴者は当社 ンやクリームソーダ も反応が良い。喫茶 -中・上級クラ

めるのか ス受講者はプロが占

はとことん抽出技術の向 理論の座学が多く、上級 チェーンの仕組みや抽出 上を目指す内容だが、 中級はサプライ

てくれる人も珍しくない。 いる。初・中・上級を問 は限りがないと実感して コーヒー好きの探求心に わず見れば週2回参加 リピーターも多く

ヒーの強みとは 活動がある。キーコー –競合他社にも似た

報を頭に入れ、コミュニ 受講したか」など事前情 れまでどのような講座を だ。常連の人の場合は「こ 離感を近くしていること ケーションが盛り上がる 定員8名で講師との距 とっての重要さも増すと

している。 ツ、SNSでアプローチ ポイントが共通で、コー 挙げておきたい。IDや ビスと連携している点も 営店という当社の他サー 先に述べた動画コンテン できる体制を構築してい イレクトプロモーション る。ライト層に向けては ヒーに興味がある人へダ

教室」の役割とは -改めて「コーヒー

らない。 可能性に寄与する、とい けるコーヒー文化の持続 をはじめとした日本にお う考えはこれからも変わ コーヒー産業、喫茶店

が一般の生活者だ。

は受講者の半分以上

を横断しての情報共有 を強化し、キーコーヒー キーコーヒーグループに をリードすべき存在だ。 店との連携のように社内 らだ。ECサイトや直営 握することができるか 感じている。生活者の 線を担うようになったと ファンづくり の最前 の他サービスとの連携 ナーを始めてから、当社 ーーズを直接的なコミュ ーケーションを通じて把 一方で一般向けセミ